

公益財団法人 福武教育文化振興財団 創立25周年記念事業

## 「犬島 海の劇場」犬島ダンス掌編集「たまゆら」

公益財団法人福武教育文化振興財団 創立25周年記念事業「犬島 海の劇場」の一環として7月28・29日犬島3会場でヨーロッパを中心に活躍するダンサー、湯浅永麻氏、ミゲル・オリベイラ氏、柳本雅寛氏、楠田健造氏による、ダンス掌編集『たまゆら』を公演しました。

湯浅氏に犬島公演を終えての感想を寄稿していただきました。

### ここでしか表現できないコンテンポラリーダンス

湯浅永麻

“たまゆら”は、『すぎてみればほんの一瞬の出来事』という意味です。過去に2回ほど犬島を訪れ、少しだけその歴史などに触れた際に感じた、潮の干満にも似た寄せては返すような人々や産業の到来と繁栄、またたった10年で閉鎖された製錬所のはかなさと、2時間ほどで終了してしまうダンス公演に共通している刹那さをタイトルに込めました。

真夏の犬島で屋外の場所をありのままに使って公演。犬島に実際に滞在して作品を仕上げるのは5日間という状況のうえ、柳本さんと楠田さんは初めての犬島来島であり、リハーサルは予想以上にとても大変でした。

今回の“たまゆら”は、3人のクリエーターによる異なる3作品から構成されています。場所も犬島アートプロジェクトチケットセンター前の芝生エリア（湯浅作品）、家プロジェクトの1つである中の谷東屋（柳本作品）、そして西ノ谷湾岸の砂浜（楠田作品）で行われ、観客に犬島を廻っていただくようになりました。

最初の作品“さよならをもういちど”は、島民の皆様と観客を交えたフォークダンスから始まり、男性のコミカルなデュエットから男女のデュエットで終わります。なぜフォークダンスかというと、もう閉校してしまった犬島の学校の運動場を見たときに、きっと島民の方々はここではにかみながらフォークダンスを行っていたんだろうと想像すると、切ない気持ちになり、島民の皆様にぜひ参加していただければと思いました。本番は島民の方では少なかったため、観客の方も巻き込んでのフォークダンスとなりましたが、4日間毎日1時間の練習に来ていただいた島民の方々からは、貴重なお話を聞けて充実した時間になりました。

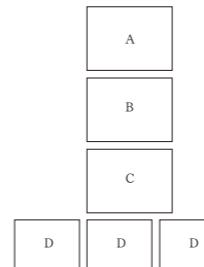
次の尾崎紀世彦さんの“さよならをもう一度”は、その歌詞に訪れては去って行くことを繰り返した人々と犬島との関係をかけています。ダンスはそれに反して滑稽ですが、その代わり最後のショパンでは一変してシリアスで、2人は終始すれ違っている……。

2作品目の“Fe”は、振り付けした柳本さんが中の谷東屋にインスピレーションを受けられて、とてもスピー

ディーに創作が進みました。とても音響がいい、まあいい屋根の中の長さの違う柱を、オリベイラさんが即興的に叩くことによって美しい音の振動が響き、その決して広くはない空間のなかが、音とともに大きく広がって行くような感じにさせられます。観客とダンサーの距離はお互いに触れられるほどで、まさに目の前で柳本さんによるとても緊張感の有るソロから始まり、デュエット、そしてまたソロで終わります。犬島の集落の中に突然現れる、建築家妹島和世さんの装飾の無いシンプルで美しい東屋と、その柱と柱の間をすり抜けていく柳本さん独特のオーガニックで同時に力強い動きのコントラスト、そしてオリベイラさんによる音のインプロ。まさに、サイトスペシフィックな、場所の特性を生かした作品だと思います。

最後の作品“いぬじまのかけら、こけらのけむりのはな”では、音楽に犬島に伝わる犬島音頭がかけらのように現れては消えます。瀬戸内海に浮かぶ島々に霞がかかって遠くに見え、時折横切って行く船が作る波が心地よく浜に打ち上げる。そんな情景の中、楠田さんが1人砂浜にたたずみ、砂の上や水中でソロが繰り広げられます。最初、ほかのダンサーは風景になじんでいて、観客からは出演者かどうかわからないほど。そしてゆっくりと遠くから集まっていく……。この作品は当初1作品目に予定していたのですが、公演開始の16時半の浜は、まだ炎天下であったため、3作品目に変更になりました。それにより真夏の厳しい光が弱まった黄昏時の光が、より作品を引き立たせてくれる結果になりました。

それぞれ3人が犬島で受けたインスピレーションを形にした全く異なる雰囲気の3作品。何もかもがそろう都市ではなく、過疎化の進んだ瀬戸内海の島、かつて日本の近代化を支え、今度は再び現代アートによって貢献している数奇な運命のこの島で、常設出来ないコンテンポラリーダンスというアート作品を上演させていただけることは、アーティストの一人として本当に幸せなことですし、本来のアートの在るべき姿を感じます。これからも色々なアートを通して、犬島で出会ったお元気な島民の皆様と、島を訪れる若い人たちの交流がさらに盛んになっていくことを信じています。



A：ダンサーの呼びかけに島の人々や観客も加わったフォークダンスで開幕

B：湯浅永麻とミゲル・オリベイラのデュオは碧い海とショパンの旋律をバックに

C：建築の秘めたる魅力を引き出した柳本雅寛のダンス

D：石材積出し湾の水際を舞台に選んだ楠田健造



湯浅永麻 ————— Ema Yuasa

Nederlands Dans Theater1 (NDT1)所属。イリ・キリアンをはじめ、ウィリアム・フォーサイス、マツ・エック、オハッド・ナハリン、ライトフト・レオン、クリスタル・パイ、ヨハン・インガー、ウェイン・マクグレガーなど、数々の振付家のレパートリー、または新作に参加し踊る。ヨーロッパで活躍する様々な有名ダンサーと競演し好評を博し、ヨーロッパを始めアメリカ、アジア、オーストラリアなど、世界各国の舞台で活躍している。



Photo all by ; Daisuke Aochi

### 「犬島 海の劇場」——今後の予定——

新作野外劇「内海のクジラ Whales in the inland Sea」 作・演出：坂手洋二

9月22日(土・祝)・23日(日) 13:30 ~ 14:50 [会場] 犬島・西ノ谷湾岸

日本初演・鳥の劇場「天使バビロンに来たる」 演出：中島諒人

11月3日(土・祝)・4日(日) 13:20 ~ 15:00

[会場] 犬島アートプロジェクト「精錬所」内 近代化産業遺産 発電所跡